

製品名: Scn4b ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17655**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	27kDa

抗原情報

遺伝子名	SCN4B
別名	SCN4B; Sodium channel subunit beta-4
遺伝子 ID	6330.0
SwissProt ID	Q8IWT1
免疫原	抗血清はヒト SCN4B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

背景

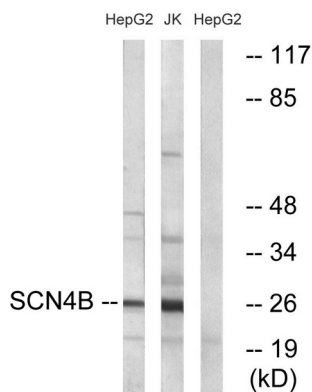
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ナトリウムチャネルの β サブユニットの一つです。これらのサブユニットは電位依存性 α サブユニットと相互作用し、ナトリウムチャネルの動態を変化させます。コードされている膜貫通タンパク質は、SCN2A と鎖

間ジスルフィド結合を形成します。この遺伝子の欠陥は、QT延長症候群10型(LQT10)の原因の一つです。この遺伝子には、3つのタンパク質コード転写バリエーションと1つの非コード転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq提供、2009年3月]、疾患:SCN4Bの欠陥がQT延長症候群10型(LQT10)の原因である[MIM:611819]。QT延長症候群は、心電図におけるQT間隔の延長と多形性心室性不整脈を特徴とする心疾患です。運動や精神的ストレスに反応して失神や突然死を引き起こします。乳児期に突然心臓死という前兆となる事象を呈することがあります。機能:チャンネルゲーティング動態を調節します。特定の α ナトリウムチャンネルの活性化の電圧依存性に負のシフトを引き起こしますが、不活性化の電圧依存性には影響しません。PTM:SCN2Aとの鎖間ジスルフィド結合を多数含みます。類似性:1つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含みます。サブユニット:電圧感受性ナトリウムチャンネルは、1つ以上の β -1、 β -2、 β -3、および/または β -4サブユニットによって制御されるイオン伝導性細孔形成 α サブユニットで構成されています。 β -1と β -3は α と非共有結合していますが、 β -2と β -4はジスルフィド結合によって共有結合しています。SCN2Aと関連します。組織特異性:背根神経節で高レベルで発現し、脳、脊髄、骨格筋、心臓では低レベルで発現します。、

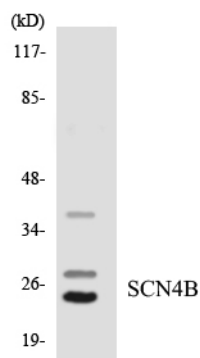
研究分野

神経科学; 神経プロセス; 神経シグナル伝達

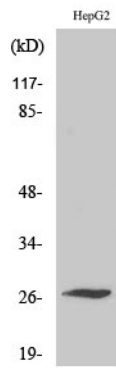
画像データ



SCN4B抗体を用いたHepG2細胞およびJurkat細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



SCN4B抗体を使用したHeLa細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



Scn4b ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析